

豊橋市

歴史

ふたがわはちまんじんじゃさいれい

二川八幡神社祭礼



東町、中町、新橋町からそれぞれ山車が1輛ずつ出されます。山車は「御車」と呼ばれ、3輛とも慶応元年（1865）に建造されました。

祭礼日 10月第2土曜日・日曜日

祭礼場所 二川八幡神社

内容・見どころ

土曜日は宵祭りで、夜に神社前にてお囃子の競演が行われます。日曜日が本祭りになり、正午に神社から行列を組んだ神輿渡御が出発し町内を練り歩き、要所で稚児舞が行われます。また、同時に山車もお囃子を奏でながら巡行します。山車3輛には、からくり人形が搭載されています。



豊橋市

歴史

ただこうはちまんしゃれいさい

忠興八幡社例祭
【小鷹野祭り】

昭和57年（1982）に山車が建造されました。その用材は神社境内地から伐り出し、氏子青年会が製作、彫刻などの作業を行いました。また、山車の建造により、出発時の神事、祭囃子が創作されました。

祭礼日 10月中旬の土曜日・日曜日

祭礼場所 忠興八幡社

内容・見どころ

土曜日は宵祭り、日曜日が本祭りです。山車は1輛あり、祭囃子によって町内を巡行します。日曜日の夜には、手筒花火や大筒花火が行われます。

No Photo

豊橋市

みなとしんめいしゃれいさい

湊神明社例祭



祭礼日 10月第3土曜日・日曜日

祭礼場所 湊神明社

歴史

昭和32年（1957）に山車が建造されました。元々、山車は湊神明社区域の6町のうち、3町にありましたが、2輦は解体され1輦のみとなりました。現在は、1輦を6町で曳いています。また、湊神明社は「おんぞ祭」が有名です。

内容・見どころ

山車の曳き廻しや岩戸神楽、子供手踊りなどが行われます。

No Photo

豊橋市

まえしばしんめいしゃれいたいさい

前芝神明社例大祭



祭礼日 10月第2土曜日・日曜日

祭礼場所 前芝神明社

歴史

前芝神明社の御祭神は天照皇大神です。創建は仁和元年（885）と言われていますが、天文9年（1540）海嘯により社殿が流失して記録をなくしたため、詳細は不明です。現在、最も古い棟札は万治2年（1659）5月22日のものです。山車は、昭和36年（1961）に寄贈されました。

内容・見どころ

山車は1輦あり、山車の曳き廻しや神子神楽の奉納、渡御行列などが行われます。



大社神社臨時大祭 【国府祭り】



祭礼日

7月最終金曜日・土曜日・日曜日

祭礼場所

大社神社

歴

史

この祭は国府町の大社神社の夏祭りで、明治2年(1869)に御旅所となる進雄神社への神輿渡御に山車を曳き出したのが始まりとされています。また、その前身となる祭礼は少なくとも江戸時代には行われていたと考えられています。

内容・見どころ

国府大社神社の祭で、上町・中町・下町・南田の4町内がそれぞれ山車を曳き、「歌舞伎行列」が旧東海道を練り歩きます。見どころはこの華やかな歌舞伎行列です。鮮やかな隈取り、絢爛豪華な衣装に身をつつんだ町の青年たちが「石川五右衛門」「白浪五人男」「おかる勘平」「弁慶」などに扮して練り歩きます。見栄を切れば拍手喝采、見物人から声がかかります。夜は、手筒煙火、大筒煙火、仕掛け花火などが奉納されます。



八百富神社式年大祭総参り



祭礼日

巳・亥年の4月中旬

祭礼場所

大社神社

歴

史

この祭は、現在、巳年と亥年の八百富神社式年大祭に合わせて行われている総参りです。昔、竹島の弁天様とその使いである白蛇（宇賀神）が津波で竹島から流され国府村に漂着し、そのままこの地で祀られていたところ、元禄の頃に国府村と竹島の庄屋が時を同じくして弁天様と白蛇が元の竹島に戻りたがっているという夢を見たので、大八車に御酒や餅を積んで国府村から竹島まで送り届けたことに始まったと伝わっています。

内容・見どころ

総参りは大社神社での神事後、伊勢音頭が奏される中、上町・中町・下町・南田の計4町の大量の花を挿した車が餅をばらまきながら竹島に向かいます。



豊川進雄神社例大祭 【豊川夏祭り】



「豊川進雄神社記」によれば、大宝元年（701）の大干ばつのとき、豊川の西岸、旧鎌倉街道に沿った元宮の地に牛頭天王をお祀りして、雨乞いの祭を行ったことが始まりと伝えられています。延宝9年（1681）の神幸行列の記録があります。また、祭の一部である「進雄神社の奉納綱火」は、昭和43年（1968）に県の無形民俗文化財に指定されました。

祭礼日

7月20日に近い金曜日・土曜日・日曜日

祭礼場所

豊川進雄神社

内容・見どころ

20町の氏子区域を東西に分け、金曜日の晩ならしから手筒煙火やからくり煙火、大筒煙火が盛大に奉納されます。土曜日の宵祭では綱火も奉納され、技巧を凝らした仕掛けが見られます。日曜日の大祭では女兒が舞う囃子車の巡行があり、神輿や獅子頭、神馬、笹踊りなどを伴った神幸行列が元宮まで巡行し、人形を搭載した車が続きます。山車では稚児舞や大太鼓をお囃子に合わせながら独特な所作で打ちならす隠れ太鼓が行われます。



若葉祭 【牛久保の若葉祭、うなごうじ祭り】



元禄14年（1701）に中神善九郎が著した「牛窪密談記」にも4月7日・8日と祭日が記されているので、古くから続く卯月八日の祭事であったことがわかります。また、古くは戦国時代の牧野成時（古白）の時代の故事に遡り、現在行われている祭礼行事の原型は、神社の諸記録から既に18世紀初頭には形づくられていたと考えられています。平成21年（2009）に、祭が県の無形民俗文化財に指定されました。

祭礼日

4月7日・8日に近い土曜日・日曜日

祭礼場所

牛久保八幡社・天王社

内容・見どころ

天王社に祀られる獅子頭を宵祭のときに八幡社へ迎え、翌日の本祭に八幡社の神輿とともに天王社に送り、その神幸に伴って氏子4組がダシと呼ばれる町印を先頭に、それぞれ特色ある祭礼風流を展開します。氏子はかくれ太鼓や神児舞、笹踊りを披露します。笹踊りは風流歌に合わせて踊る拍子物風流の芸能で、囃子方であるヤンヨウガミが笹を持ち、最後には所構わず寝転びます。その姿から若葉祭は「うなごうじ祭り」とも呼ばれます。



御油神社例大祭
【御油祭り】

祭 礼 日

8月第1土曜日・日曜日

祭礼場所

御油神社

歴

史

陰暦9月1日に行われていた祭礼は、明治時代以後、大正4年(1915)8月1日・2日を祭礼日としましたが、戦後は現在の日程に変更して行っています。

内容・見どころ

1日目は神幸行列が行われ、高砂車、神馬が先導します。煙火櫓練り込みが町内を巡り、夜になると川花火が実施されます。2日目、神輿が御油神社に進むとき、仕掛け花火や手筒も始まり、空には180発ほどの煙火が花開きます。神輿は神社の137段の石段を厄年の人に担がれ、掛け声とともに一気に駆け上がります。松明の明かりを頼りに本殿に向かう様子は幻想的で、石段を登りきって本堂に神輿が到着すると、一斉に拍手がわき起こります。

宮道天神社例大祭
【雨乞いまつり】

祭 礼 日

8月第3土曜日・日曜日

祭礼場所

宮道天神社

歴

史

宮道天神社の本社は宮路山上にあり元嶽大明神といい、昔から雨乞いの社として知られています。宝永の頃にこの社に雨乞いの祈願をしたが霊験がなく、当時の神官が百万遍の大念仏を修めた後、再度祈願したところ大雨が降ったといい、それから「雨乞いまつり」と言うようになりました。

内容・見どころ

祭礼前日の土曜日は、神輿渡御が行われ、翌日曜日には神輿渡御の行列を中町・下町・関川の囃子車と華やかな歌舞伎行列が先導します。地元の青年が花魁や武士、娘などに扮する歌舞伎行列は、この祭の目玉です。行列が行く旧東海道には旧旅籠建物など古い建物がいくつか残っており、風情ある町並みを勇壮な囃子車に軽快なお囃子を伴って行く歌舞伎行列は、とても趣があります。



風祭り

【菟足神社の風祭り】



古くから人身御供の由来伝承を持つ生贄を供える祭として知られており、『今昔物語』や『宇治拾遺物語』にある三河国の猪を生けながらおろす「風祭」が今に伝わるものと言われています。この祭に関する史料として、「元禄七年菟足神社本縁」、「天保十三年年中行事帳」、「明治四年当社年中行事式」が残っています。平成27年（2015）に、祭が市の無形民俗文化財に指定されました。

祭礼日

4月第2金曜日・土曜日・日曜日

祭礼場所

菟足神社

内容・見どころ

3日間の祭では、垢離とり神事、雀射初神事、雀射収神事や田植神事など個性的な神事が行われます。土曜日の宵祭には昼花火や手筒、大筒、建物煙火などが奉納され、小坂井と宿からそれぞれ山車が出され、山車上では大太鼓（隠れ太鼓）や稚児舞・獅子舞が行われます。山車曳行では飯田線の踏切で電線の下を通るために上層部が屋根ごと昇降し、見せ場の一つになっています。本祭では獅子舞（百足獅子）、笹踊り、神輿渡御などが行われます。



素盞鳴神社秋祭

【枯木秋祭】



祭礼そのものの由来等は不詳ですが、山車曳きは伊勢の木曳き神事に由来すると言われています。明治時代の初め頃、形原町内の漁師が大漁や海上の安全を祈願して始まったとされています。なお、神社の枯木の名称は境内の枯れ果てた樟を御神木としていたことに由来しています。この枯木は天明年中、暴風雨のために吹き倒されましたがその一部は朽ちず、現在も境内に残されており、祭事や氏子に「枯木」の名称が冠せられています。

祭礼日

10月第1土曜日・日曜日

祭礼場所

素盞鳴神社

内容・見どころ

祭礼で曳かれる山車は1輦で屋形船の形状をしています。長さ5m、幅1.5m、重さ1t～5tほどの船に4つの車輪を付け、中央部に4本柱を取り付け、青葉で葺き上げた屋根を設置しています。その屋根に大漁旗や造花などを飾り立てます。土曜日の夜は、手筒や大筒などの奉納花火があり、日曜日は朝から山車が曳かれます。笛、太鼓、唄による、チャラボコ太鼓が見どころです。



蒲郡市

みたけじんじゃれいさい

御嶽神社例祭



歴史

祭礼の由来等は不詳ですが、伊勢の木曳き神事に由来すると言われ、明治時代の初め頃、形原町内の漁師が大漁や海上の安全を祈願して始まったとされています。明治時代から昭和31年（1956）まで毎年、御嶽神社に奉納されていましたが、若衆の解散を機に中断し、昭和42年に明治百年記念で奉納された後も休止状態でした。自治区が復活を呼びかけ、平成2年（1990）より例年行われています。

祭礼日

10月第2土曜日・日曜日

祭礼場所

御嶽神社

内容・見どころ

祭礼では、屋形船の形状をしたものや子供用の小型船のものなど3輦の山車が曳かれます。「三区あおい丸」の曳き廻しは4年に1回が原則です。土曜日の宵祭では午後7時から、祭礼の見どころでもあるチャラボコ太鼓や手筒花火などが奉納されます。日曜日の本祭では午前9時から式典が行われます。午後にエン曳きが行われ、車輪の付いた屋形船を「エン曳け、エン曳け」の掛け声とともに大勢の若者が曳き廻しながら町内を練り歩きます。



蒲郡市

みやまつり

三谷祭

【八劔神社・若宮神社例祭】



歴史

元禄9年（1696）、三谷村の庄屋佐左衛門が、村の中央に位置する八劔神社の大明神が神輿に乗って三谷村東方に位置する若宮神社に渡御される夢を見ました。これを神のお告げとし、八劔神社の御神霊を神輿に移し、若宮神社へ神幸したことが「三谷祭」の始まりとされています。昭和44年（1969）に、祭が市の無形民俗文化財に指定されました。また、山車5輦も昭和32年と昭和36年に市の有形文化財に指定されています。

祭礼日

10月第4土曜日・日曜日
(潮位に応じて第3土曜日・日曜日)

祭礼場所

八劔神社・若宮神社

内容・見どころ

蒲郡市三谷町の八劔神社と若宮神社の両社の大祭を三谷祭といい、5輦の山車が曳かれます。土曜日に試楽、日曜日に神幸の儀式を行い、町内6区の氏子たちがそれぞれ独特の踊り（練り）を奉納し、各区にある山車を曳き廻して両社の間を練り歩きます。本祭最大の見どころは4輦の山車を海中に曳き込む「海中渡御」ですが、これこそ大祭にかかる町民の意気と団結を示すもので、ここに「天下の奇祭」と称される所以があります。



大宮神社例大祭



祭礼日 10月第2土曜日・日曜日

祭礼場所 大宮神社

大宮神社御由緒によると、蒲郡開発の祖藤原俊成卿の娘菊姫が父の名を以て、元暦2年（1185）2月19日紀州那智山の下一野郷より若一王子熊野三社大権現を勧請されたと伝えられています。その後、上ノ郷城を築いた鵜殿氏が大宮神社を崇拝し、この地の産土神としたとされていることから古くから祭が行われていることがうかがえます。

土曜日の宵祭では、夕方になると図書館前に各組の山車が集合し、神社の大鳥居の前で山車の練込が行われ、ちゃらぼこ太鼓や獅子神楽が披露されます。また、夜に行われる、手筒・大筒の奉納煙火も見どころの一つです。日曜日には、午前中に御神輿渡御が行われ、午後は余興として弓道、剣道、相撲の大会や餅投げが行われます。

八百富神社例大祭
【竹島さんのお祭】

祭礼日 10月第3土曜日・日曜日

祭礼場所 八百富神社 本殿・遥拝所

江戸時代末期から始まったとされ、例祭では当時の蒲郡の領主松平氏が必ず家臣を連れて参拝していたとされています。祭礼行事の七福神踊りは三谷祭で奉納される踊りを模したものとされ、戦前までは踊りとともに各組の練込にもぎやかに行われていましたが、戦後、若衆が不足し始めると祭礼の継続が難しくなり、昭和40年代後半に一時中断しました。昭和52年（1977）に「蒲郡まつり」の一環として復活し、七福神踊り保存会も結成されました。

八百富神社は蒲郡市の観光名所としても知られる竹島に鎮座する神社です。竹島へ渡る橋の手前に遥拝所があり、祭礼の1日目はそこで七福神の奉納舞が行われたり、煙火のお祓いが行われたりします。夜になると奉納煙火が披露されます。2日目は午前中から単層の山車や船形の山車などが町内16地区で曳き廻され、ちゃらぼこ太鼓や各組の祭囃子などが見どころです。



蒲郡市

ゆうだてんじんしゃれいさい

龍田天神社例祭



歴史

祭礼の由来等は不詳ですが、伊勢の木曳き神事に由来すると言われ、明治時代の初め頃、形原町内の漁師が大漁や海上の安全を祈願して始まったとされています。1950年代後半から、担い手不足等の理由で祭礼の継続が難しくなりましたが、1980年代頃から復活し始め現在に至ります。

祭礼日

9月第4土曜日・日曜日

祭礼場所

龍田天神社

内容・見どころ

祭礼では2輦の山車が曳き廻されます。山車とともに披露されるチャラボコ太鼓が見どころで、のど自慢の人が数名選ばれ、交代で1人が船首に上がり伊勢音頭を唄います。船上の中座敷は地元から選ばれた女性や芸者を乗せ、三味線、太鼓、笛などを演奏します。山車の曳き廻しの最後に、船積した餅を館（拝殿前庭に建てた櫓）に上げ、太鼓を合図に厄年の餅まきを行います。



新城市

とみながじんじゃれいたいさい

富永神社例大祭
【富永神社秋祭り】

歴史

3日間にわたって繰り広げられる富永神社の祭礼では、江戸時代から伝わる町衆による伝統的な芸能が町ごとに披露されます。寛文4年（1664）から祭礼が盛大になり、笹踊りが始まったとされています。また、奉納される能と狂言のことを「祭礼能」といい、昭和33年（1958）に市の無形文化財に指定されました。

祭礼日

10月第2金曜日・土曜日・日曜日

祭礼場所

富永神社

内容・見どころ

初日は神社の能楽殿で能や狂言が奉納され、中日は神輿渡御、山車の曳き廻し、笹踊りなどが行われます。最終日には手筒花火の奉納があります。山車は6輦あり、そのうち5輦は人形屋台と太鼓屋台に分かれ、先頭の人形屋台に長さ3mほどの縄で太鼓屋台を連結しているところが特徴です。人形屋台は三輪で、人形が飾られています。



石座神社例祭

【石座神社秋祭】



石座神社の創建時期は不明ですが、「式社考」によると大宝3年（703）に初めて圭田を奉り神事を行ったことが伝えられています。また、本社は「延喜式」に名を連ねる神社式内社で、宝飯郡六座のうちの1社でした。元来、雁峰山の山頂にある巨石を信仰の対象としたことに始まるとされ、中世の頃に現在地に社殿が建てられたものと推測されています。

祭 礼 日

10月第2土曜日・日曜日

祭礼場所

石座神社

内
容
・
見
ど
こ
ろ

山車は2輛あり、氏子各地区から子供神輿のお練り奉納があります。各地区の集会場に設けられた神輿宿と神社境内を往復します。見どころは笹踊りで、小学校低学年の児童により舞われ、辺りを縦横無尽に暴れまわるスズメたちのお囃子に合わせて太鼓を鳴らしながら巡行します。

No Photo

八幡神社秋季例大祭



寛永5年（1628）に八幡神社の社殿が造営されたといえます。祭礼では、昭和36年（1961）に市の無形文化財に指定された立物花火が奉納されます。立物花火は、江戸時代中期に新城藩士が参勤交代で江戸に出府した際、両国の川開きの花火を見て、その技術や資料を持ち帰って始められたと言われています。

祭 礼 日

10月第3土曜日・日曜日

祭礼場所

八幡神社

内
容
・
見
ど
こ
ろ

山車は1輛あり、山車の曳き廻しや神輿渡御、立物花火、手筒花火の奉納などが行われます。立物花火では、木で組んだ高さ10m・幅6mほどの枠に、花火の灯によって色とりどりの画像が夜空に浮かびあがります。

No Photo

新城市

とみながじんじゃさいれい

富永神社祭礼



歴史

長篠・富永神社の創建時期は不明ですが、社殿に11世紀後半～12世紀の牛頭天王像が祀られていることからその歴史は古く古代末～中世初頭に遡る可能性も考えられています。村の氏神とされ、明治5年（1872）に村社となりました。



祭礼日

3月第3土曜日・日曜日

祭礼場所

富永神社

内容・見どころ

山車は1輛あります。旧国道約1.5kmを車両通行止めにし歩行者天国として、稚児行列、山車行列のお練りが繰り広げられ、神楽や手筒花火、相撲などが奉納されます。中でも化粧まわしをして、手拍子にあわせて声高らかに謳う相撲甚句は見事です。



新城市

おおのじんじゃさいれい

大野神社祭礼



歴史

大野神社の創建時期は不明ですが、嘉禎元年（1235）の棟札が最も古い資料として知られています。寛文5年（1665）の棟札には六所大明神の銘が見られることから六所神社の時代を経て、明治5年（1872）に静岡藩庁により大野神社と改称しました。このほか、赤引糸所縁の服部神社、戦病没者を祀る郷土神社が境内社として並び建っています。



祭礼日

4月第3土曜日・日曜日

祭礼場所

大野神社

内容・見どころ

山車は1輛あり、町内を山車行列として練り歩きます。



田原祭り

【かさぼこまつり】



江戸時代の熊野神社の祭礼として始まったと伝えられています。明治時代以降、名古屋型の山車が登場し、いつしか精巧なからくり人形が人々を魅了するようになりました。現在では、八幡社、神明社、巴江神社の祭を合わせて、「田原祭り」と呼ぶようになりました。萱町、本町、新町から山車が出され、昭和63年（1988）に、各町の山車とからくり人形が市の有形民俗文化財に指定されました。

祭礼日

9月15日に近い土曜日・日曜日

祭礼場所

八幡社・神明社・巴江神社

内容・見どころ

山車の曳き廻しやからくり人形の披露、手筒・大筒花火、打ち上げ花火などが行われます。夜は、着飾った子供たちや青年が夜山車の上で手踊りを披露します。山車は3輛あり、それぞれにからくり人形が搭載されています。また、各山車によるお囃子の競演も見どころです。



秋葉神社・畠神社大祭



福江湾に面する鴻ノ巣海岸に奉祀する秋葉神社の御分霊を、神輿行列を組んで畠神社境内にある御旅所に奉遷し、ここで秋葉神社の大祭神事を行います。

祭礼日

10月第2日曜日

祭礼場所

秋葉神社・畠神社

内容・見どころ

神輿行列を奉迎するために、町内各組から山車が出されます。神輿の渡御行列が通り過ぎると勢ぞろいした各組の山車は、それぞれの組に伝わるお囃子に合わせて各組の町内を練り歩きながら、神輿の後を追うように畠神社を目指します。山車は5輛で、その年に流行しているアニメなどのキャラクター人形を飾る山車もあります。また、「下地の坂」と呼ばれている急な坂道で、一気に山車を引き上げるところは圧巻です。



設楽町

ちょうちんまつり

チョウチン祭り



歴史

津島の津島神社の祭を模したもので、牛頭天王に関係する祇園祭です。この祭は奥三河でごく一般的に行われていましたが、清水津島神社のように盛大かつ伝統そのままに継承されているのは珍しいことです。それは、昔、悪疫が流行したときに、「村が三軒になってもチョウチン祭りは続ける」と津島様に祈願してあるからだといえます。

祭礼日

6月30日

祭礼場所

清水津島神社

内容・見どころ

山車（屋台）は1輛あり、屋台に紐付けられた約200個のチョウチンに、神社でもらった神火を火種として火を灯していきます。やがて屋台が笛太鼓の打ち囃子とともに、清水区公会堂から神社まで曳かれ、打ち囃子の奉納が終わると「チョウチン取り」が始まります。見物人は我先にと奪い合い、ヤナギやチョウチンを手に家路に就きます。それらを持ち帰ると夏病みしないと言われ、戸間口に飾られます。



東栄町

あきのたいさいよいまつり

秋の大祭宵祭り
【宵祭り】

歴史

秋の豊穡を祝う諏訪南宮神社の大祭は、戦国時代にこの地域を拠点にしていた伊藤氏が、現在の地に神社を遷座した天文11年（1542）9月16日にちなみ、昭和17年（1942）まで毎年9月16日に秋の大祭が行われてきました。

祭礼日

10月第1頃の土曜日・日曜日

祭礼場所

諏訪南宮神社

内容・見どころ

山車は1輛あり、山車の曳き廻しや打ち上げ花火、手筒花火などが行われます。



須佐之男神社祭礼



祭 礼 日

4月下旬

祭礼場所

須佐之男神社

歴

史

明治時代まで祭礼は近隣の池之神社（新城市）と交互に行われていたことが古文書に記されています。その後、祭礼は神社ごとに行われるようになりました。

内容・見どころ

JR東栄駅付近で行われ、山車の曳き廻しや打ち上げ花火などが行われます。山車は1輛あります。

